

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 教育文化部会（第2回）
開催日時	平成27年7月22日（水） 午後7時から午後9時
開催場所	音更町役場2階 第1・第2委員会室
委員出席者	岡庭部会長、矢野部会長代理、大高委員、酒井委員、高橋委員、名内委員、藤井委員、藤川委員、堀委員、前川委員
事務局出席者	大久保教育部長、青砥教育委員会管理課長、早苗生涯学習課長、白戸文化センター館長（兼図書館長）、佐藤スポーツ課長、傳法企画財政部長、渡辺企画課長、西岡企画調整係長、高田企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画の見直しについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	基本計画修正案、施策評価調書
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>※はじめに事務局より文言修正の説明</p> <p>■社会教育 【目標指標】 ・目標指標（1）社会教育事業の参加者数の説明中、「公民館講座」を「生涯学習講座」に修正。</p> <p>■生涯学習の体制づくり 【目標指標】 ・（2）「生涯学習講座の参加者数」を「共同・連携生涯学習講座の参加者数」に修正し、説明書き「音更町と帯広大谷短期大学の共催による」を「音更町と帯広大谷短期大学、音更高等学校との共催による」に修正。「※00JC オープンカレッジ」を「※00JC オープンカレッジ、高校開放講座」に修正。 ・（3）集団研修施設の利用者数のうち、当初数値「6,987人」を「7,662人」に、中間数値「7,636人」を「7,628人」に修正。</p> <p>■高校教育、高等教育 【目標指標】 ・（2）生涯学習講座の開催数について、生涯学習の体制づくりの目標指標（2）と同様の内容で修正。</p> <p>■生涯学習の体制づくり</p> <p>委員：目標指標（3）について、施策の主な内容がこれと違って変わっていないのに、この5年間で利用者数が下がっている中、これから5年間で上げるというのか。</p> <p>事務局：利用する団体の人数により増減はあるかと思うが、平成26年度の実績数値よりも多めに利用していただきたいという希望も含めた数値ということでご理解いただきたい。</p> <p>委員：数字はこれでいいが、施策の方に、例えば町の広報紙に入れてPRするなど、具体的なものを入れないとダメではないか。</p>

事務局：集団研修施設に関しては、町のホームページでも利用の呼びかけをしており、今後も継続して利用を呼び掛けていきたいという考えであるため、ここではあえて記載していない。

公民館に関しては、今利用されている団体が逆に利用できなくなるという危険性もあるので、あえて利用を呼び掛けるというようなことはしていないが、ホームページでは公民館があるということを知っている。

また、集団研修施設と地区公民館については、十勝管内で定住自立圏として動いており、これらの施設については広域でも周知をしている。

部会長：広報等をさらに続けていただくということをお願いします。

委員：現状と課題に「その成果が適正に評価される」とあり、目指す方向には「その成果が適切に評価される」とある。適正と適切が変わっただけで、インパクトがもう少し欲しい。評価ばかりではなく、例えば「活かされる」というような文言が目指す方向の中にあっただ方がいいのでは。

事務局：より適切な表現を考えさせていただく。

委員：リーダーバンク制度について、利用者や問い合わせはどれくらいか。

事務局：正確な件数は把握していないが、年間で約10件弱ぐらいの問い合わせがある。その他、登録者名簿を見て登録者に直接連絡する場合もあり、その点については把握しきれないということで、ご理解いただきたい。

委員：施策（1）で、②リーダーバンク制度と④生涯学習ボランティアは似たようなことを意味しているのでは。

事務局：記述については精査させていただきたい。

委員：リーダーバンク制度をせっかく作っただけで、その人たちを活用するようなシステム、発信が必要では。

事務局：リーダーバンク制度については、こちらからこの指導者を使って何かやってくださいということではなく、その時々に応じて必要な指導者を選定して活用いただき、問い合わせがあったらこういう指導者がいますよという紹介もしたりする。ホームページで周知しているので、あとは町民の皆さんがこれを見て活用していただくのを期待している状況。今後の周知方法は検討したい。

■社会教育

委員：目標指標に郷土資料室の利用者数と社会教育事業の参加者数が挙がっており、めざす方向の中では郷土資料室の利用についての記載は特にないが、目標指標として挙がっている理由はあるのか。施策（1）⑥で各団体やサークルの活動を支援するとしているのであれば、例えば登録している文化サークル等の数や参加者数は目標指標とはならないか。

事務局：記述については検討させていただきたい。

部会長：特に郷土資料室については短大の学生が多く利用しているので、できれば施策の主な内容で少し触れていただけるとありがたいと思っている。

委員：図書館の目標指標について、平成21年度に6.4でなぜ6.2にまで落とすのか。平成26年度に5.9に落ちているので6.4というのであればわかるが、さらに落としているということは、施策の主な内容で積極的に取り組むとしていることとリンクしない。少なくとも6.8が無理であれば6.4、6.5というのが掲げる目標としてはいいのではないか。大きな理由があれば別だが、充実しますと触れているのにも関わらず、数値を落とすというのはいかがなものか。

事務局：ご了承いただけるのであれば、6.4という高い数値、当初の数値に近づけたい

という気持ちは十分あるが、実際到達できる数値かどうかということ平成 26 年度実績やそれ以前の実績を考慮した中を出している。

委員：下方修正の理由が違うと思う。スマホと携帯がこれだけ普及し、本ではなく電子媒体で見えるようになったから下方修正したという理由でなければ、実態ベースがこうだから下げましたというのでは目標にはならない。6.2 もちょっと高いのではと思う。今後どんどん活字離が進み、貸出冊数が減るのは当たり前だと思う。10 年前、5 年前にはそこまで想定していなかったから、今回想定しますというのであれば納得するのだが、達成できるレベルが 6.2 冊だから 6.2 冊にする理由は説明が違うような気がする。

部会長：いいご意見をいただいたと思うので参考にさせていただきたい。

委員：施策の（１）④が施策としては弱いと思う。生涯学習の体制づくりの分野の施策（１）④生涯ボランティア養成と関連しての話だが、場面を増やす、養成に努めるというのは、あくまでも自助努力で、高齢者がこれからますます増えていく中で、社会参画を考えた時には、この表現では弱い。ボランティアの養成ではなく、既にキャリア、ライセンスを持ち活躍していた方が相当数いると思うので、そういう人材を上手に吸い上げていくような、登録制度のようなシステムづくりを、生涯学習か、社会教育かは断言できないが、高齢者をはじめとする町民の社会参画として謳っていった方がいいのではないかな。

事務局：現状でもリーダーバンクの登録者を募っており、そのような記述を生涯学習の体制づくりのところでのどのように記載するか検討したい。

委員：登録者に対してはそのニーズごとに登録した後のシステムづくりも密に、相互に深くなっていけば活動の充実度がかなり増してくるのでは。

事務局：町民の方から問い合わせがあった場合には、その分野に応じて、町が登録者と事前に交渉する、また、登録者のほとんどの方は直接交渉してもいいように連絡先も書いてあり、直接交渉することもできる。こういったことをホームページでアップしており、なおかつ登録の呼びかけもしている。

委員：郷土資料室の入館者数はどのようにカウントされているのか。

事務局：入口に備え付けている名簿の記載の集計と、ここ数年は各学校 4 年生、5 年生が多いが、社会科の授業で利用させていただいており、そういったものも含め、利用人数を集計している。

委員：図書館について、施策（２）で、①学習相談体制の充実、②に蔵書の整備計画を計画的に進めますとあるが、目標指標が利用者数と貸出冊数で、先ほど意見のあった郷土資料室もそうだったが、施策の主な内容と目標指標がリンクしていないような気がするので、ご検討いただきたい。例えば、施策の主な内容に揃えるのであれば、蔵書の整備を計画的に進めますに合わせて、蔵書の動きを一つ目標数値に設定する、逆に目標数値が利用者数であれば、利用者数を増やすための施策の主な内容を記述する、そういったかたちで少しリンクさせるような工夫をお願いできればと思う。

委員：郷土資料室の記帳をするノートがどこにあるか分からない。目の前に邪魔になるくらいところに置いて、みんなに知らしめるような、色々な資料や人材バンクの冊子などが置いてあるコーナーを考えたらどうか。
それと、ホームページを一切利用しない人、高齢化社会になると、今できる人もできなくて、発信の仕方をもう少し大きく、グローバルに、年代別に考えて欲しい。

事務局：郷土資料室の関係については、すぐに取り組む。発信の仕方については色々検討していきたい。

委員：発信の仕方については、この部会だけではなく全体的に言えることなので、部会長会議がある時にでも出してもらえれば、みんなのものになっていくのではないかな。

■スポーツ

委員：昔のように5月は町民体育大会、10月10日の体育の日は秋のスポーツ大会というような縛り付けることはできないかもしれないが、意識づけ、喚起するような施策があってもいいのでは。ただ、公共施設もかつてのように空いているという状況ではなく、ハード面を確保できなければかなり難しい側面が出てくるかもしれないが、ある程度まとまって意識づけできるような施策を示していてもいいのではないかと思う。

部会長：施策の主な内容のあたりで何か盛り込めるような文言があれば検討願いたい。

委員：生涯学習はものすごく幅が広く、本格的にやるとしたら、独立して生涯学習部などをつくって本格的に取り組んでいかなければ皆さんが出されていたような願いはできないと思う。そのような中、本町の現状を考えると、最低限この程度ではないかと思っている。実際には、総合計画には書かれていないことをたくさんやっており、その中のほんの少しがここに出てきているだけ。

委員：目標指標で、年度がこのページだけ25年度、26年度、27年度の3種類が出ているので、揃えては。

■芸術、文化

委員：音更の郷土芸能と指定文化財の現状などについて説明してほしい。

事務局：十勝駒踊、東土狩獅子舞、矢部獅子舞、この3つの郷土芸能の団体については、町が無形文化財に指定している。十勝坊主については、町が有形文化財に指定している。掲載されている3つの郷土芸能の団体の他、音更音頭保存会、音更駒太鼓、十勝川平原太鼓を含めた6つの団体で郷土芸能保存協議会を組織しており、それぞれの郷土芸能の団体については、町の事業への協力や、学校行事、地域の行事などに積極的に協力していただいております。町としても郷土芸能を保存、継承していかなければならないという考えから、それらに対して補助している。

委員：6つの郷土芸能団体があってそのうち3つの団体しか記述されていないのはいかがなものか。

事務局：記述については、検討させていただきたい。

委員：文化とスポーツは同じ表現をしなければならないと思う。改めてスポーツと文化を見比べると、例えば、文化の方であれば施策(1)③に文化活動団体やサークルの活動を支援とあり、スポーツにも各種団体やサークルがあるだろうが、それが触れられていない。芸術と文化でそれぞれ担当されている方が違うことは理解するが、うまく合わせ読めるように統一性があればいいのではないかと感じた。

事務局：その辺は整理させていただきたいと思う。

■総合戦略策定に向けて

委員：雇用の確保。仕事、働く場所があれば若者は残るし入ってくる。音更の人口減少を考えるのであれば、住むだけのベッドタウンではなくて、働く場所が無いといけないと思う。

あとは、音更と言えば農業と観光。これでどれだけ雇用を創出できるかだと思う。農業も例えば長男が家を継ぐというだけでは雇用は生まれない。法人化など大胆なことをしないと、プラスにはならず、離農していく人がいれば絶対マイナスしかない。観光では50万人ぐらいの宿泊客で満足してはダメで、観光がきっちりあるから、そこに人を雇う力が出てくる。

委員：雇用は非常に大事な問題。また、地元就職の希望者が多い。音更出身の学生が音更高校に進学し、大谷短大に進学して、音更で働きたいということが多いので、難しい問題だが、雇用があれば出ていくということは多分無いのではと
思っている。

委員：山村留学制度の活用。空いている教員住宅等々を活用できれば、小規模校であればそれなりの実績、効果も期待はできる。

委員：民間の空き家を活用させるようなシステム。

委員：十勝川温泉は音更にあるというリンクだとか、音更の知名度を上げながら顔を向けさせる、興味を持たせるということも必要ではないか。

委員：子どもと女性というのが一つのキーワードにならないかと思っている。子育てをしやすいとか、イメージ的なものも確かにあると思うが、「感じ良いぞ、この町」というようなものを何とか出せるような戦略が立てられるといいと思う。女性と子どもをキーワードにしてまちづくりを続けていけば、定住人口は増えていくのではないかと思う。

※次回専門部会開催日時を8月20日（木）午後7時からとした。